

重要河川施設の機能喪失回避のための施設マネジメント検討会（第2回）

議事要旨

日時：令和8年5月21日（木）10：00～12：00

場所：国土交通省水管理・国土保全局 会議室（WEB 併用）

（1）関係団体からの意見聴取

■一般社団法人河川ポンプ施設技術協会より、河川ポンプ施設の現状と課題を発表

- 小型の河川用ポンプについては、汎用性の高い標準ポンプを少しでも活用できるよう検討することが望ましい。ただし、現状の標準規格では、河川用ポンプの仕様は規格外となるため、設置条件や操作性等に留意する必要がある。
- 更新にあたっては、DX等の新技術を活用することが望ましい。ポンプのDX等の新技術は存在するものの、河川施設への適用については検討がなされていないため、今後、これらの導入について実証試験が必要である。ただし、技術的な課題に加えて、法律や制度の課題もある。国交省以外の施設も含めて規格の共通化等も検討することが望ましい。
- 統計データを用いるなどにより、業界の状況が限界を迎える時期を示すことが望ましい。

■一般社団法人ダム堰技術協会より、河川ゲート施設の現状と課題を発表

- ゲート設備について、部品の互換性から代替調達ที่困難な場合があることから、規格の共通化等を検討することが望ましい。
- ゲート部品の調達に必要な時間も、更新の優先度を検討する際に考慮することが望ましい。
- 社会全体で人口が減少しており、技術者不足はどの業界でも生じているため、当該業界の特殊性や必要性について明確に説明できるようにすることが望ましい。

■一般社団法人東北建設業協会連合会及び一般社団法人東北河川管理技術研究会より

河川施設の現状と課題について発表

- 水門等の操作員は、アウトソーシングだけでは問題が生じる可能性がある。地域に根ざした持続的な操作員確保の仕組みを構築することが望ましい。

（2）「急所」となる河川施設の考え方

- 被害想定額等の定量指標に加え、交通途絶や病院などの重要施設の有無など、定性的な観点も評価に取り入れることが望ましい。
- 従来の経過年数や健全度に加え、外力に対する耐久性や突発的な機能喪失の可能性を考慮することが望ましい。
- ポンプについては能力（容量）に加え、稼働率等の実態を考慮することが望ましい。
- 部品調達の困難性（長納期、供給停止等）は機能回復性に直結するため、重要な評価要素とすることが望ましい。
- 代替性の評価にあたっては、単なる設備数だけでなく、システム全体としての機能確保の観点から整理することが望ましい。
- 選定手法としては、絞り込みではなく、ポイント方式など複数要素を総合的な評価によるものが望ましい。